∞ iTec

Press Release

2001年7月10日

報道関係者各位

株式会社インフィニット・テクノロジーズ

フラットパネルディスプレイの2006年の市場規模を発表
『LCD/FPD市場戦略年鑑2001-02』を発刊

電子デバイス等のマーケットリサーチ・コンサルティング専門会社 **iTec**（正式名称：**インフィニット・テクノロジーズ**　所在地：東京都世田谷区、Tel代表：03-3702-0526）は、2001年7月10日に、フラットパネルディスプレイの需給・部材動向をまとめた**『LCD/FPD市場戦略年鑑2001-02』**を発刊した。

このレポートは2001年2月に発刊された**『LCD部材・受給年鑑2001』**を相互補完しあうもので、FPDの主要31用途について、2006年までの製品生産・ディスプレイタイプ・インチサイズ・カラー化・単価などの動向を予測し、ディスプレイタイプ毎に積み上げてある。またLCDメーカーの収益動向についてもデータ提供している。**本年版ではとく**に、脚光を浴びている携帯電話・PDAなど**中小型パネルビジネスを特集**、携帯電話コストからみた表示パネル価格、これまでのLCD中小型パネルの収益動向、メーカーの競争力分析などを提示してある。

両レポートとも、ディスプレイメーカー・部材メーカー等の必携書であり、データはデファクトスタンダードとして活用されている。また**ai-comm**（シンガポール）を通じて英語版も全世界に供給される。

■発表内容

詳細は、添付資料をご覧下さい。

１．2001年の世界のフラットパネル市場

対前年2.3%増の3.1兆円にとどまる。これは、台湾TFTラインの本格稼働にともない、大型TFTパネルの実勢価格が大きく下落したため。期待される携帯電話も、CDMAへの切替えのための調整期にあたり、ややトーンダウン。

２．2006年の世界のフラットパネル市場

7.8兆円市場にまで成熟。うちTFTは4兆円、有機ELディスプレイは2,300億円で、アクティブマトリクス駆動のフルカラー有機ELD需要が一気に立ち上がるのは2000年代中盤以降。

３．LCDメーカーの収益動向

2000年後半からTFTの市況が悪化に転じ、2000年度の各社収益は減速。2001年度は、赤字転落企業が続出。

∞ Infinite Technologies, 2001

４． 中小型パネルビジネス

携帯電話・PDA 向け LCD 市場は、2006 年 9,600 億円規模にまで成長。しかし単価が現行の 1/2 程度にまで下落、パネルメーカーの過当競争もあり、これまでのように好収益体質を維持することは難しい。業界再編や新規セグメントの創出、高付加価値戦略の推進で対抗すべき。

■（株）インフィニット・テクノロジーズ 概要

インフィニット・テクノロジーズは、電子デバイス・電子材料・IT 等のマーケティング・コンサルティング専門機関で、1999 年に設立されました。まだ新しい会社ですが、ユニークな市場分析手法とデータベースで、ディスプレイ関連でも日本のみならず、米国、韓国などの企業からも注目を集めています。

とくに2000 年8 月に発刊された**『FPD/LCD 市場戦略年鑑 2000-01』**では、データ・予測のユニークさから、殆ど全ての LCD メーカー、部材メーカーから好評を博しております。

■お問合せ先

（株）インフィニット・テクノロジーズ

代表取締役　　大垣　城治

Tel：03-3702-0526　　Fax：03-3702-0515

E-Mail：george@infinite-tec.com

∞ Infinite Technologies, 2001

添付資料

好評のレポートがパワーアップしました！　きっとここにビジネスチャンスがあります！！

Advanced Market Report

LCD / FPD 市場戦略年鑑　2001-02　のご案内

特集：脚光を浴びる中小型 LCD 市場へのビジネスチャンス

●本レポートのこれまでにない特徴

1．FPD の大型用途のみならず、中小型にもスポットライトをあて、生産動向・カラー化動向・サイズ動向をワールドワイド 2006 年まで予測したうえで、各 FPD の需要予測として積み上げる。
2．LCD 業界の収益動向や業界構造の問題点を俯瞰する。
3．大好評を博した「2000-01 年版」に、ディスプレイ・アプリケーション別金額ベースの予測を追加、インチサイズもさらに細分化、本年版では「携帯電話・PDA 向け市場の戦略データ」「中小型の収益分析」を特集した。

●本レポートのコンテンツと内容

0．Executive Summary

1．特集：脚光を浴びる中小型 LCD 市場へのビジネスチャンス　～携帯電話・PDA を中心として

＜結論と内容＞

・2005 年の W-CDMA 端末の価格は 2001 年 PDC 並。表示パネルコストは 2001 年の 1/2 強にまで下落。
・2006 年の PDA・セルラー向け LCD 市場は 9,600 億円と急拡大。しかし TFT メーカー参入過多で収益性に疑問。
・2000 年度の中小型 LCD 大手５社の平均営業利益率は 8.2%に達した。

2．FPD / LCD/ CRT のワールドワイド中長期需要予測（1999 年～2006 年）

＜対象ディスプレイ＞TN-LCD, STN, カラーSTN, aSi･TFT, 高温 pSi･TFT, 低温 pSi･TFT, 反射型 LCD, プラスチック LCD, PDP, O-ELD, I-ELD, VFD, FED, LED, DMD, CRT, Flat CRT

各、⑴市場予測（数量）、⑵市場金額予測、⑶価格予測、⑷用途構成、⑸インチ別予測、⑹カラー化動向、⑺メーカー動向、⑻技術動向、⑼その他重要な事項、等を収録

＜結論と内容＞

・世界の FPD 市場は 2001 年は TFT 市況悪化で 3.1 兆と横這い。2006 年には 7.8 兆円規模に成長。
・カラーSTN は携帯電話の急増により需要は拡大基調であるが、2003 年から減少局面となる。
・大型 aSi･TFT は 2001 年には金額ベースで対前年割れ。Acer, Unipac, Chimei など躍進。
・中小型 aSi･TFT はようやくセルラー向けが立ち上がるも、早くも過当競争。
・低温 pSi･TFT は各社新増設で、一気に 850 億円規模に拡大、2006 年には 3,000 億円をうかがう。
・PDP はデジタルＴＶの普及が遅れており、まだノン TV 中心の展開。低価格路線は進む。
・有機 ELD は Motorola の採用で上昇機運。フルカラー化、アクティブマトリクス駆動は 2003 年にテイクオフ。とりあえず自発光および高応答速度向けから市場開発が始まる。
・無機 ELD は耐震・高応答速度・耐寒などユニークな性能を持つが、コスト・輝度・発色性に課題が多い。
・VFD は安定・成熟局面にあるが、カラーディスプレイの各セグメントへの浸透により、漸増に留まる。
・FED は 2003 年からテレビ向けの市場投入が始まる。
・CRT はテレビ用はワイド化がプラス要因であるが、PC 用はLCD モニターとの価格差が縮まっており苦戦。チューブ撤退企業が相次ぐ。

3．FPD / LCD/ CRT のセグメント別競合予測

＜対象セグメント＞①大型（10 インチ以上）：PC モニター、ラージノート PC、テレビ、ノン PC モニター、その他（WP 等）
②中小型：スモールノート PC、PDA・Handheld PC、家庭用 WEB 端末、デジタルセルラー、簡易型セルラー、ページャー、小型 TV・ポータブル DVD、ビデオカメラ、デジタルスチルカメラ、プロジェクター、AV フロントパネル、リモコン、ポケットゲーム、パチンコ、車載ディスプレイ・ナビゲーション、インパネ表示用、FA/計測機器、メディカル機器、POS/ECR、クロック・ウオッチ、コピーマシン、電卓、他各種
各、⑴ディスプレイ需要、⑵国別・地域別需要、⑶方式別ディスプレイ需要、⑷インチサイズ、⑸カラー化動向、⑹技術動向、⑺ユーザー動向、⑻その他重要な事項、等を収録

＜結論と内容＞
・PC 用モニターでは TFT15"のプライスダウンによって、市場が急拡大、2006 年には 42%が FPD 化。高精細モニターおよび 17-18 インチサイズの市場が急成長しそうな趨勢である。
・ノート PC はメインストリームが A4=14-15"、B5=10-12"と二極化。2006 年には 28%が高精細化する。
・テレビはデジタル化によって CRT+Set Top Box と PDP、LCD の競合が予測されているようであるが、寧ろ CRT=据置型、LCD=10-20 数インチの壁掛け、PDP=それ以上の壁掛け、と棲み分けが起ころう。
・モバイル向けは反射型 LCD の搭載が相次いでいるが、各端末の使用条件によって、中期的には棲分けが起こる。
・セルラー用は、2001 年には需要伸び悩みがあるが、CDMA 化で 2002 年より急拡大。2006 年の aSi･TFT 化率 50%、OELD 化率 8%。2 インチパネルの市況は大幅に下落。
・AV 関連ではビューファインダー型カメラとデータプロジェクターで高温ポリを採用している他は、低温ポリが飛躍的に拡大。フロントパネルやプロジェクターで OELD にも期待。
・カーディスプレイは、これまでのインパネ内のキャラクター表示部、ナビゲーション、VICS や ETC 表示、カー PC、車載 TV を統合するものとして注目される。自動車生産台数が頭打ちするなか、1 台の車に 2-6 個のディスプレイが搭載されるため、中小型の最大用途の一つになる可能性を孕む。

4． LCD のコスト・収益動向と利益確保のためのシミュレーション

⑴ LCD メーカーの収益動向と競争力分析、⑵ TFT モジュールの原価構成推移、⑶ TFT の利益確保のシミュレーション

＜結論と内容＞
・99 年度に大型 TFT メーカーの利益率が軒並み黒字に転じたのも束の間、2000 年度はトーンダウン。2001 年度の収益は多くのメーカーが赤字転落の可能性を孕む。
・台湾メーカーの販管費は 5-7%であり、2001 年の市況でも営業ベースでの黒字化が可能。最終利益ベースでは、税の優遇措置により、日本・韓国勢を圧倒する。
・ドラスティックな業界再編がないと、参入企業は厳しい。

●発刊内容

＜発刊日＞　2001 年 7 月 10 日
＜体　裁＞　基本的に **PDF ファイル版（CD-ROM）**のみでの供給となります。
＜価　格＞　特価（7 月 31 日以前のご発注）：**100,000 円**（税別）
定価（8 月　1 日以降のご発注）：　120,000 円（税別）
＜申　込＞　付属の注文書に必要事項をご記入のうえ E-mail または FAX でご送付下さい。お電話でも結構です。

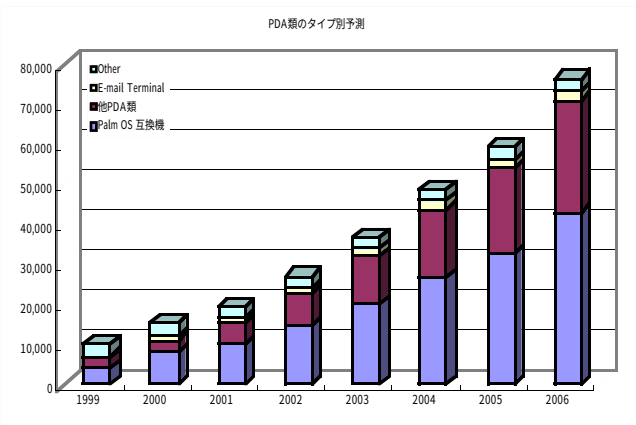
※**『LCD 部材・需給年鑑　2002』は、2002 年 2 月 1 日頃刊行**予定です。別途、ご案内申し上げます。

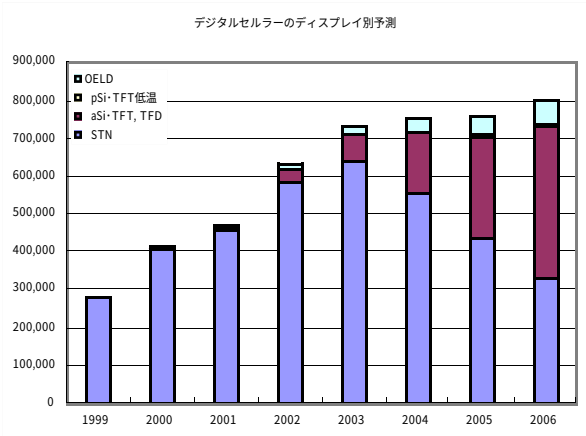
●内容見本

■デスクトップモニターのインチサイズ別需要予測

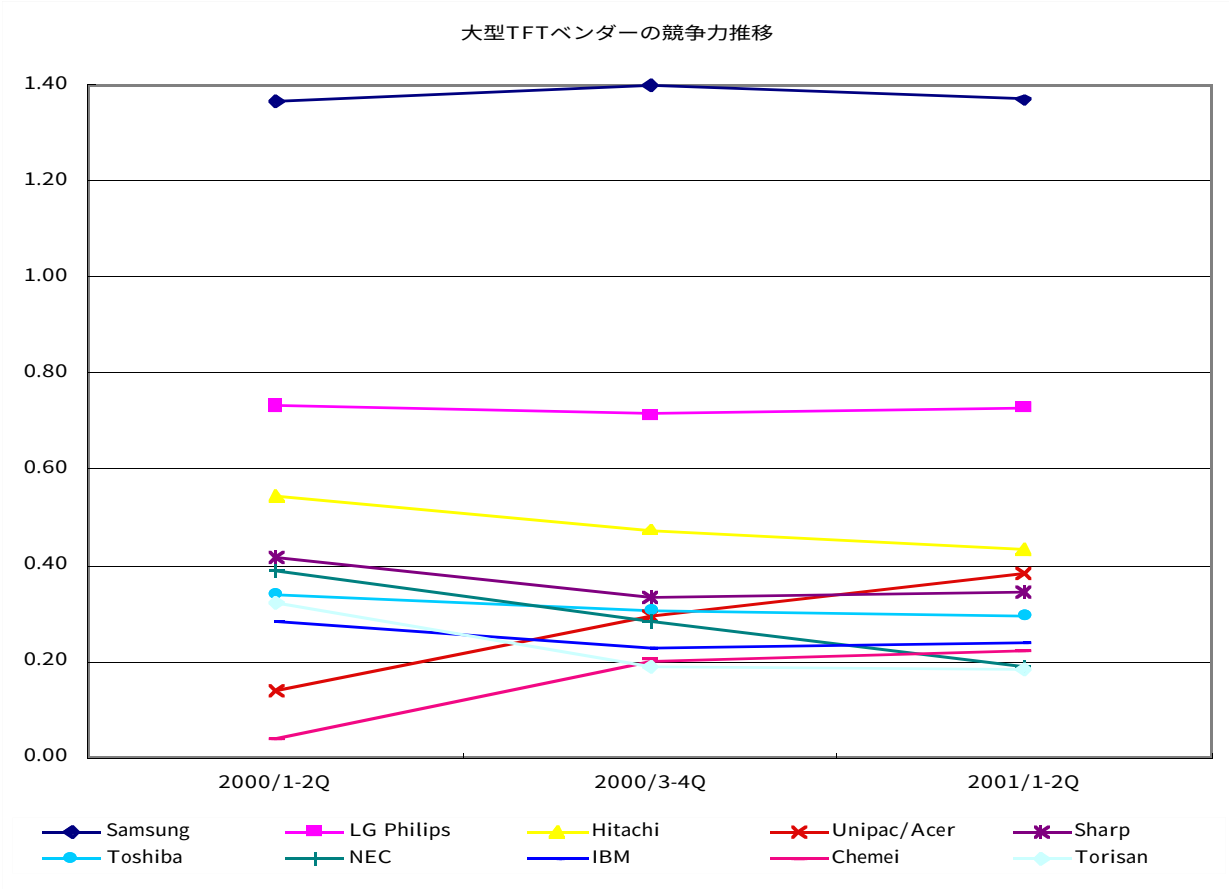
(K Units)

	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	CAGR
＜CRT＞									
14"	10,500	6,500	1,000	500	0	0	0	0	-100.0%
15"	31,490	26,500	24,500	18,000	16,000	14,000	12,000	9,000	-16.4%
17"	45,600	58,500	67,500	72,500	75,000	75,000	75,000	75,000	7.4%
19"	5,500	6,800	7,700	11,500	14,000	17,500	17,800	18,200	18.6%
21"-	3,300	2,980	3,580	3,770	4,100	6,200	6,500	6,800	10.9%
Total	96,390	101,280	104,280	106,270	109,100	112,700	111,300	109,000	1.8%
＜STN＞									
10-12"	20	0	0	0	0	0	0	0	-100.0%
＜aSi･TFT＞									
10-12" (12.1")	10	0	0	0	0	0	0	0	-100.0%
13"	130	50	20	0	0	0	0	0	-100.0%
14"	1,650	600	400	100	0	0	0	0	-100.0%
15"	2,280	6,000	11,600	17,900	25,900	39,000	51,500	66,000	61.7%
16-18"	100	300	880	1,800	2,800	4,400	6,600	9,600	91.9%
19-20"	0	20	60	140	200	400	600	1,000	
21-24"	10	30	40	60	100	200	300	400	69.4%
Total	4,180	7,000	13,000	20,000	29,000	44,000	59,000	77,000	51.6%
＜pSi･TFT＞									
15"	0	0	0	0	50	90	150	300	





---弊社は、FPD や LCD、部材についてのマーケットリサーチやコンサルテーションでも定評があります。また、昨年刊行した**『LCD/FPD 市場戦略年鑑　2000-01』**は日本のみならず、韓国・台湾・アメリカの関連メーカーの90%以上で使われており、データはデファクトスタンダードとして御利用いただいております。


大型TFTベンダーの競争力推移
1.40
1.20
1.00
0.80
0.60
0.40
0.20
0.00
2000/1-2Q
2000/3-4Q
2001/1-2Q
Samsung
LG Philips
Hitachi
Unipac/Acer
Sharp
Toshiba
NEC
IBM
Chemei
Torisan